

甲斐信濃夜涼の星座分ちあふ

藤田湘子

「甲斐信濃」と聞けば、湘子の好きだった安曇野が思い出される。そして、甲斐駒ヶ岳から南に連なる南アルプスの山々。晩夏の「夜涼」である。黒々と聳え立つ山脈の上に、都会とは異なる星の輝きが広がる。

掲句では、迷いを断ち切るような断定の「けり」ではなく、「星座分ちあふ」と、穏やかで何とも言えぬ趣や奥行を感じさせてくれる。

今まで、領土や国境が星座を分割するなどとは考えたことも無かったが、人間のエゴが強まれば、月面や火星の領有や採掘権を主張する政治家が現れるに違いない。生き物すべてに分ち合う心を忘れないで欲しいと願う。

かたつむり甲斐も信濃も雨の中 飯田龍太

1994年 (hg作) 第十句集『神楽』 鑑賞・轍郁摩